



通信員コメント欄からの声を集めてみました。

希望記事

・来年の今頃（二月頃）には、確定申告の仕方について

四月号から来年の二月号まで全六回で、税金に関するQ&Aコーナー「Q」を設けました。確定申告の仕方も含めて、紹介していく予定です。

・二〇〜三〇代のライフプランについて取り上げて頂くと嬉しいです。

今号の白崎美穂先生の記事（「Economy」）や大橋春子様の記事（「Useful Life」）もそのことを意識して掲載しています。今後とも他のテーマにおいても留意いたします。

・仕事上での鬱病対策

「Health」のコーナーで、年度後半にメンタルヘルスについての記事の掲載を予定しております。

・年金制度改革の最近の状況（厚生年金との一元化など）
・医療保険の改正と今後の方向性について

「Topics」のコーナーで、年金制度を含め、社会保険制度の変更などを解説していく予定です。

・「Person 1」「Person 2」とても貴重な内容なので時々掲載されることを望みます（セミナー開催時に実例として大いに参考となります）。

取材による「Person」、執筆による「Person」のいずれかを毎号掲載していく予定です。

・株式や信託投資等、資産運用方法のメリット・デメリットの記事を掲載してください。（他同様一名）

CFPである目黒先生が、六連載で資産運用について解説していきます。六月号より具体的な個別商品別の解説となる予定です。

・失敗から学ぶというのが重要な気がします。編集方針から記事にはできないのですが、それが人生ではありませんか。

編集方針から記事に出来ない、ということはありません。基本的に実名での掲載という原則の中で、執筆者がなかなか見つからない、すなわち自分の失敗談を中心にして記事を書いていただける方がまずいないということです。ただ随所にその一部が垣間見ることが出来る記事もあります。

・庁内や地域で起業家と言われるような取り組みを行っているヒト達を取り上げられないでしょうか？ 市民との関わりや行政サービスや産業政策などで、行政のあり方、役割、取り組みを変えるようなムーブメントを起した例やヒト。例えば夕張の病院経営では市民の病院に対する甘えや行動も変えなければ病院経営のみならず地域経営も成り立たないところまで踏み込んでいるようです。ある意味住民の意識を住民自治の原点に回帰させるチャンスでもあります。また、それらをやリ遂げたヒト達は、きっと社会起業家として退職後も活躍しているはずです。問題は、どうやってネタを拾うかですが…。

・いつだったか大分県で一村一品運動があつて話題になった。行政が提案し具体化した良い例ではないかと思う。ALPSの使命は「地方公務員のライフプランをサポートする」とあり健康や、経済問題など公務員個人を対象にしたものが多く取り扱われているが、時には公務員が取り組んだ住民サービスの面で優れた事例など紹介して欲しい。

地方分権時代にあつて、地域の実情にふさわしい行政サービスが求められる中、「Career」「Person」等でこれから取り上げたいテーマです。

その他「意見」

・「レジャーに関する保険…」数ヶ月前、妻がペーパードライバー卒業を宣言。軽カーの購入と同時に自動車保険にも加入したが、詳細な内容は?? 何気なく継続してきた自分のものも合わせて、早速見直しをしてみることにした。

ライフステージに合わせて、今後も自動車保険のみならず、各種金融商品についても見直しをされることをお勧めします。

・私はたまたま福利厚生に関わる仕事ができただけで、自分のライフプランについて関心を持っていましたが、今後は若年層への浸透が重要だと思っています。

まさしくその通りです。例えば、五〇歳代後半の方々がライフプランセミナーを受講されると「もっと若いうちに聞いておけば良かった」というようなコメントが散見されます。しかし、ライフプランを考えるきっかけ、動機のひとつが、残念なことに不安なことが出てきた時なのです。そうなる前に若年層への浸透を図るのは、当協会の使命でもあり、また各自自治体で福利厚生に関わる仕事をされる方々の責務でもあるかと思っています。

・中溝プロの絵手紙からは、やさしさとおたたかさが伝わってきます。思いつくままに書かれたという言葉は、どれも大きな感銘と生きる勇氣、困難に立ち向かう力を与えてくれます。私は、すっかりファンになりました。これからのご活躍を応援しています。(他同様多数)

ありがとうございます。

・二月号のトップページで取り上げられました「不動産担保による老後資金の調達」は大変興味深く読ませていただきました。まさに時宜を得た記事だと思います。公的年金制度への不信感やそれらに伴う国民年金保険料の不払いなど公的年金制度が崩壊寸前にあるとも言える状況から私的財産の有効活用が喫緊の課題であると思います。不動産の価値を現金化して年金資金へという考え方は以前からありましたが今ほどその必要性が求められている時はありません。神戸市と武蔵野市のリバースモーゲージ制度を比較して取り上げられていますが、民間金融機関プロパーで実施されている制度も宣伝にならない程度に紹介していただければと思います。(後略)

取材記事について、その取材先、情報源などに幅を持たせるべく努力いたします。

・「第二の人生」や「家族の絆」から改めて、定年しても働かなくては

との意を強くしたところです。ボランティア事業基金や声かけ運動など、角田市シルバー人材センターの取組は身の丈にあったものだと思います。そう言えば、一〇〇m走などのスタートの一步目って、意外と歩幅が短いらしいですね。

そうですね。はじめの一步を気楽に踏み出してみては如何でしょうか。

・玉手富士夫氏の「第二の人生」。一八歳で役所に飛び込まれ、学業と主に総務畑の仕事と同時に並行なされた等、自分の経歴とも重なるところがあり(もっともそのご努力とご功績には及ぶべくもありませんが)、興味深く読みました。地方公務員として「尽力され、退職後も地域社会に貢献するモチベーションを保ち続けていらっしゃる氏の姿勢に感銘を受けました。

何事も前向きに努力をすることは本当に大切ですね。長い人生の中のたゆまない努力には、頭が下がります。

・自分の体験を語っているものは、この冊子のねらいと合致しているかは別として、一般的な読み物として充実していたと思う。ALPS通信は、どのような声があったかを掲載しているが、読者としては特に必要ない。モニター層が幅広いと思われるので、年齢や現役かOBかなど声の内容を分析する方により、冊子作成のねらいや意味、方向性ははっきりしてくると思われる。

今後の編集予定や記事の意味合いなどを説明し、編集者と読者の間での双方のコミュニケーションを図るという目的で、今後も掲載していきたいと存じます。

・(前略) 今後は、貴協会HPにてALPSを拝読させていただこうと思います。職員の皆さんのご健勝、ご活躍を祈念いたします。貴協会HPについて、pdfのある号の記事indexがほしいものです。

協会ホームページも、四月よりコンテンツを一新しました。より分かりやすい情報提供を行ってまいります。